JA全厚連情報

(毎月 1日 発行)

Mo.1125 2023年3月1日

次 目

JA全厚連の令和5年度事業計画	(案)	等につい	て報告
厚生連会長会議を開催			

1

JA岐阜厚生連の堀尾会長などが受賞 第 43 回農協人文化賞表彰式

2

・通信員だより

令和4年度省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞を受賞しました(JA北海道厚生連) 5

> 当院の5S自慢(秋田厚生医療センター) 6

自動精算機の設置について(雄勝中央病院) 8

神奈川新聞の取材を受けました(相模原協同病院)

認定資格合格者のご紹介(相模原協同病院) 10

AED講習会を開催(保健福祉センター) 11

看護部長研修会を開催しました(JA長野厚生連) 12

2022 年度介護福祉士第2回テクノエイド研修会を開催(JA長野厚生連) 14

> 管理部新人職員研修会を開催しました(JA長野厚生連) 16

> > ミニコンサートの開催について(中濃厚生病院) 17

ロボット・内視鏡手術センターを開設(松阪中央総合病院) 18

> 健康活動推進人間ドックを実施(JA三重厚生連) 19





全国厚生農業協同組合連合会

〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル TEL (03) 3212-8000 FAX (03) 3212-8008

E-Mail: shien@ja-zenkouren.or.jp

(経営支援グループ)

http://www.ja-zenkouren.or.jp

編集責任者 中村 純誠

JA全厚連の令和5年度事業計画(案)等 について報告

厚生連会長会議を開催

1月24日に東京・大手町JAビルカンファレンスにおいて、WEB会議を併用して、厚生連会長会議を開催しました。

会議では、(1)子会社㈱コーケンの処理にかかる報告、(2) JA全厚連 令和 5年度事業計画(案)、(3)厚生事業にかかる要請活動、(4)令和6年度診療報酬・介護報酬改定要望(案)、(5)厚生連の令和4年度経営収支概要―などについて報告を行いました。

このうち事業計画(案)については、政府が新型コロナウイルスの感染症法上の見直しを表明する中、事業環境の変化に対応していくため、会員厚生連への「経営支援」及び「事業運営支援」に取り組むこととし、本会の組織体制を、経営支援部及び事業運営支援部の2部体制に変更することを説明しました。

また、要請活動については、12月7日に開催された自民党議員連盟「農民の健康を創る会」総会における本会の要請内容を説明するとともに、特に、新型コロナや新興感染症への対応として、ゾーニングのための個室の絶対数の確保が必要となっていることから、入院患者有償病床の割合(厚生連が法人税非課税を受ける要件として全病床の30%以内に制限)を厚労省告示基準とする見直しについて、令和6年度税制改正要望として取り組んでいくこととしました。

厚生連の経営収支については、光熱費をはじめとする物価高騰に伴う事業費用の増加が収支を圧迫している状況を説明しました。このため、本会としては医療事業が公定価格となっている厚生連への影響を踏まえ、引き続き政府へ物価高騰対策を求めていくこととしています。

J A岐阜厚生連の堀尾会長などが受賞 第43回農協人文化賞表彰式

1月27日に東京・大手町東京會舘において、第43回農協人文化賞表彰式が開催されました。

農協人文化賞は、農協法公布30周年を記念して昭和52年に創設されました。 多年にわたり献身的に農協運動の発展に寄与した功績者を表彰するもので、平成21年の創設30周年を機に「農協運動の仲間達が贈る農協人文化賞」へと発展しました。

厚生事業にかかる功績で受賞された方は以下のとおりである。

○厚生福祉部門

岐阜県厚生農業協同組合連合会 経営管理委員会会長 堀尾 茂之 氏

医療や介護体制の強化

JA岐阜厚生連は、岐阜県の5医療圏 (岐阜圏域・西濃圏域・中濃圏域・東濃 圏域・飛騨圏域)に8病院と診療所・老 人保健施設を運営しており、それぞれの 病院が各地域の特性に応じた医療・福祉 サービスを提供しています。許可病床数 は、岐阜県の約12%を占め、県内で最も 多くの病床数を有する組織です。

堀尾氏は、平成 25 年に岐阜県厚生農業 協同組合連合会経営管理委員会会長に就



受賞された堀尾会長

任し、農業者を始めとする地域住民のため、県内8病院1診療所を運営し、 医療・介護の充実に向けて強力な指導力を発揮しました。特に人口減少の激 しい農山村という不利な条件の中で、関連大学医局と交渉して医師の確保に 努め、また岐阜大学に寄付講座を開設し、研究・研修を通して医師の人材育 成に努めました。

一方、国が進める地域医療構想の実現に向け、県内で率先して病床再編・ 病院統合に取り組み、医療体制の整備を進めました。さらに、へき地診療所 に医師派遣するなど、各病院が中核病院として、その地域の特性に応じた医 療活動を積極的に行いました。

現在5病院が、へき地医療拠点病院の指定を受けています。さらに、県内 に7カ所の訪問看護ステーションを開設。入院から在宅への移行を円滑にす るための訪問介護・訪問リハビリテーションなどの充実に努めました。

○厚生事業部門

福島県厚生農業協同組合連合会白河厚生総合病院名誉院長 前原 和平 氏

福島の地域医療復興へ

白河を中心とする福島県県南2次医 療圏は、人口当たり医師数が全国平均の 60%に満たない医療資源の少ない地域 です。白河厚生総合病院は、この医療圏 唯一の総合病院として、中核的役割を果 たしてきました。

前原氏は、平成14年に福島県の白河 厚生総合病院に病院長として卦任して 以来 18 年間、地域医療の充実、医師の 育成や確保に努めました。特に基幹型初 期臨床研修病院認定、新病院移転新築、



受賞された前原名誉院長

地域がん診療連携拠点病院指定などのほか、日本農村医学会学術総会の開催 や福島県立医科大学寄付講座の開設など、県南地方はもとより栃木県北部を 含めた中核病院としての発展に尽力しました。

さらに、平成15年から病院長兼務理事としてJA福島厚生連全体の運営に 関わり、定年退職後も名誉院長として外来診療に携わるとともに、同病院付 属高等看護学院の学院長として活躍しています。

また、平成23年3月11日、東日本大震災が発生しました。白河の震度は6強でした。災害拠点病院として、大地震を想定した災害訓練を毎年行ってきましたが、正にシナリオ通りの状況となりました。免震構造のおかげで病院本体はほとんど無傷で診療機能は保たれ、損壊した近隣病院、および原発事故により全館退避となった双葉厚生病院を含む入院患者50人を受け入れることができました。同年3月23日からは通常診療復帰を決定し、県内で最も早い復帰でした。6月には被災3県で最も優れた災害拠点病院として読売新聞に掲載されています。

東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故の際には、被災病院協議会を発足させ、東京電力へ賠償請求、国への施設基準緩和措置、医療スタッフの派遣要請などを行いました。現在も顧問として福島県医療の復興・再生に努めています。

JA全厚連情報 No.1125 2023年3月1日

口通信員だより口

令和4年度省工ネ大賞 省エネルギーセンター会長賞を受賞しました

(IA北海道厚生連·帯広厚生病院)

帯広厚生病院(大瀧雅文病院長)は、この度、省エネルギーセンター会長賞 を受賞しました。

本表彰事業は、事業者や事業場等において実施した他者の模範となる優れた 省エネ取り組みや、省エネルギー性に優れた製品並びにビジネスモデルを表彰 するものです。この表彰事業では、公開の場での審査発表会や受賞者発表会、 さらには省エネ事例部門の全応募事例集や製品・ビジネスモデル部門の受賞概 要集などを通じ、情報発信や広報を行うことにより、国全体の省エネ意識の拡 大、省エネ製品の普及などによる省エネ型社会の構築に寄与することを目的と しています。

今般、帯広厚生病院は「大規模病院のZEB化に向けた「熱の動きをデザイ ンする」熱源省エネ技術の実証」で日本ファシリティ・ソリューション株式会 社、株式会社久米設計、芝浦工業大学、東海大学と共に省エネルギーセンター 会長賞を受賞しました。

授賞式が2月1日東京ビッグサイトで行われ、各代表者と共に表彰式に参加 してまいりました。



表彰式の様子



表彰を受け取る井田事務部長

(佐々木萌通信員)

当院の5S自慢

(JA秋田厚生連・秋田厚生医療センター)

秋田厚生医療センター(遠藤和彦病院長)では、厚生労働省が位置付けた、 患者の安全を守るために全ての医療関係者が協働して医療安全に取り組むこと を目的とした医療安全推進週間において、院内各部署の5S自慢を募集しまし た。

5 Sとは「整理・整頓・清掃・清潔・躾(習慣)」のことで、「安全」「効率的」 「快適」の3つを目標としており、医療安全の指標となるものです。

今回の取組みは、日頃の活動において「ここに力を入れている」「ここだけは 他部署に負けない」と自負する内容を各部署から募り、院内掲示を行って、職 員による投票にて優秀作品を表彰するものです。

募集後は、あっという間に各部署から日頃取り組んでいる内容が提出されました。その自慢の数々は、外来通路に掲示され、職員や患者さんが足を止めて 熱心に見入っていました。

普段、会議やミーティング等で周知されている5Sであっても、改めてその活動内容がイラストや装飾文字で目を引く魅力的な掲示として可視化されたことで、職員一人ひとりが医療安全について再認識する大変良いきっかけとなりました。



5S自慢募集の取組み

多数の応募の中、栄えある院長賞に輝いたのは栄養科部門でした。「身だしなみを徹底して安心安全な給食の提供を目指す」と題し、「5羽の鳥」が「5 Sにトリ組んでいる」模様を表現した内容です。日頃の成果が認められ、栄養科スタッフは、今後の5 Sの取組みに向けてますます励みになったようです。

今後も院内全体で安全安心な医療の提供を目指して取り組んでいくことを認識した医療安全推進週間でした。



院長賞に輝いた栄養科部門

(三浦由佳通信員)

自動精算機の設置について

(JA秋田厚生連・雄勝中央病院)

当院では令和4年 10 月 3 日より、総合受付前に自動精算機を 2 台設置しました。現在は平日 2 台、休日 1 台で、平日・休日ともに 8 時 30 分から 19 時まで稼働しています。現金の他にクレジットカード、キャッシュカードでの精算も可能となっており、大きなトラブルもなく、順調に稼働しています。以前は会計窓口において、患者さんと対面で会計業務を行っていましたが、自動精算機を導入したことで対面での金銭の受け渡しが減り、業務上のミスの発生抑制にも繋がっています。

また、現在は新型コロナウイルスが蔓延していることから、感染対策にも繋がっており、患者さんも安心して利用できる環境となっています。

さらに、自動精算機の画面操作が簡略化され、よりスピーディーに会計ができるため、患者さんの会計待ち時間の短縮にも繋がっていると思います。

湯沢雄勝地域はご高齢の患者さんが多いため、慣れない自動精算機の操作に 苦慮されることもありますが、現在は当院のスタッフが一定の時間常駐してサポートしており、スムーズな運用に努めています。今後も地域住民のみなさん に寄り添った質の高いサービスを提供できるようスタッフー丸となって努めて 参ります。



(三浦由佳通信員)

神奈川新聞の取材を受けました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

1月11日に相模原協同病院(井關治和病院長)では、新型コロナウイルスが国内で初めて確認されてから3年を迎え、国内初の患者の治療に当たった当院の当時の状況について、井關病院長が神奈川新聞の取材を受けました。「十分な情報がない中でも患者を見逃さず、対応ができたことはよかった」と振り返りました。しかし、現在も「第8波」の対応に追われており、「これほどまでに流行の波が繰り返されるとは想像もしていなかった。収束後には感染症対応のシステムを抜本的に構築し直すことが重要だ」と訴えました。



神奈川新聞の取材を受ける井關病院長

(新嶋友梨恵通信員)

認定資格合格者のご紹介

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

このたび、相模原協同病院(井關治和病院長)企画情報課 主任 小木戸 淳一が、一般社団法人日本医療情報学会が認定する「上級医療情報技師」に合格されました。

医療情報技師とは、保健医療福祉専門職の一員として、最新の情報処理技術に基づき、医療情報を活用、提供するための知識、技術、資質を有する方に認定される制度です。上級医療情報技師は、これに加えて、保健医療福祉分野のシステム化にあたり、企画提案ができ、開発、導入、運営の各段階においてリーダーシップを発揮できることが求められます。さまざまなシステムを正しく開発、導入、運営することで、これからの保健医療福祉分野の安全性を高めるためにも期待されている資格の一つです。



「上級医療情報技師」に合格された小木戸淳一さん

(新嶋友梨恵通信員)

AED講習会を開催

(JA神奈川県厚生連・保健福祉センター)

1月30日、保健福祉センター(野田吉和センター長)では施設内に設置しているAEDのメーカー担当者のご指導の下、人形を用いた講習会を行いました。 そこではAEDの使用方法から胸骨圧迫まで、心肺蘇生法の一連の流れを教わりました。

119 番に通報してから救急隊が到着するまでの時間は平均9分だそうです。 その間にAEDの活用を含む心肺蘇生を行なった場合と何もしなかった場合で は救命の成功率が格段に変わるとのことです。

いざという時に勇気を出して周りの人で声を掛け合い、協力することが大事 であることを学びました。





AED講習会の様子

(新嶋友梨恵通信員)

看護部長研修会を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連(洞和彦・代表理事理事長)は1月21日、各事業所の看護部長13名を対象に、看護部長研修会をJA長野県ビルで開催しました。この研修は、各施設における現状・課題を共有し、病院のミッション・ビジョンに基づいて、看護部として貢献できる方策について考えることを目的としています。講師にJAかみつが厚生連上都賀総合病院副院長の齋藤由利子氏をお迎えし、経営戦略の立案についてその手法を学びました。

今回は、マネジメント手法の一つであるバランスト・スコアカード(BSC) について理解を深めました。バランスト・スコアカードとは企業の経営戦略の立案や実績の評価を行うためのフレームワークのことで、「財務」「顧客」「業務プロセス」「学習と成長」の4つの視点から戦略目標やアクションプラン等を設定し戦略テーマを明確化します。



JAかみつが厚生連 上都賀総合病院 副院長 齋藤由利子 氏

研修では病床規模別に3グループに分かれ、各代表1病院自施設の強み・弱み・課題等を共有しながら、SWOT分析・クロス分析・二次元展開を行い、戦略マップを作成しました。グループワークでは休憩時間返上で活発な意見交換が行われ、齋藤先生にご助言いただきながら、病院のミッション・ビジョンを支える柱となる戦略テーマを考えていきました。

研修後、参加者からは「戦略課題の見極めの手法を学ぶ事ができた」「自病院の振り返りができ、すべきことが明確になった」「ひとりでは中々理解できない

ことも、メンバーと話しながら解決の糸口が見えた」などの声が寄せられ、大変充実した時間であったことが伺えました。また、コロナ禍において、今年度は集まる機会がほとんどなかったため、今回は参加者同士で情報交換や悩み等を共有する良い機会となりました。



グループワークの様子

(山岸愛通信員)

2022 年度介護福祉士第2回テクノエイド研修会を開催

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連(洞和彦・代表理事理事長)は2月3日、2022年度介護福祉 士第2回テクノエイド研修会を開催しました。

テクノエイド研修会は、患者さん、利用者さんの自立支援、介護者の負担軽減につなげるために、福祉用具の安全かつ効果的な活用技術を習得し、また個々の状況に合わせたアセスメントができるために、事例検討を通じ、指導者としての情報の共有と活用、新たな福祉用具の導入検討につなげることを目的とした研修です。

職員のレベルにより中級、上級を分け年間2回の研修に参加し、その間、自 部署の課題について取り組みます。そして、その成果を発表する場がこの事例 発表研修です。



第1回研修の様子①(講師は日本ノーリフト協会 保田淳子先生)



第1回研修の様子②

今回、この研修に参加した介護福祉士39名が発表を行いました。中級では姿勢の見直しからADL拡大につながった事例や移乗に係る負担軽減事例、上級では安全管理上の課題解決や福祉用具の選定の標準化などの発表がされ、お互いの発表を聞くなかで、新たな課題が見いだせたのではないかと思います。

発表の進行は介護部門の役職者が主に行い、課題と成果について管理者も共 に考え、承認し、共有できる場となっています。

この研修を通じて、今後の質の向上、さらなる視野の拡大と次世代リーダーへの成長を期待しています。



第2回研修の様子(WEB開催)

(山岸愛通信員)

管理部新人職員研修会を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連(洞和彦・代表理事理事長)は2月22日に第4回管理部新人職員研修会を開催し、総合職職員5名の参加がありました。この研修は、社会人としての心構えをつくり厚生事業並びに病院の仕組みを理解することで患者様の要望に適切に対応できる人材の育成を目的に、毎年開催しています。

「組織で働くうえでの基本」・「接遇マナーについて」・「医療機関の役割・医療保障制度」・「1年間の振り返り」の計4回の研修を1年の間に行いました。 コロナ禍のなか、開催形式がオンラインにならざるを得なかった回もありましたが、最終回となる4回目は集合研修で開催することができました。今回の研修で自身の行動について1年間を振り返り、課題の整理を行い次年度に向けて目標設定を行いました。これからの活躍に期待しています。





研修会の様子

(山岸愛通信員)

JA全厚連情報

ミニコンサートの開催について

(JA岐阜厚生連·中濃厚生病院)

岐阜県関市の中濃厚生病院(赤松繁病院長)は、令和4年12月16日、1階ホールにて中部学院大学の吹奏楽部の演奏によるクリスマスコンサートを開催しました。

中濃厚生病院と中部学院大学は令和4年10月、人材育成や研究、病院利用者への支援に関する連携協定を締結し、この一環としてコンサートを企画しました。

クラリネットとフルートによる明るく美しい演奏に、患者さまや病院スタッフが足を止めて聴き入る様子が印象的でした。

コロナ禍の病院内で、こうしたイベントの開催が難しい状況が続いていますが、密にならないよう感染対策を行いながら、無事開催し、患者さまに喜んで頂くことができました。今後も、地域に開かれた病院としての取り組みを企画してまいります。



ミニコンサートの様子

(寺師史華通信員)

ロボット・内視鏡手術センターを開設

(JA三重厚生連·松阪中央総合病院)

松阪中央総合病院(田端正己病院長)では、「ロボット・内視鏡手術センター」 を開設しました。

三重県厚生連では2台目となる手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を、 松阪中央総合病院へ令和3年8月に導入し、同年 11 月から前立腺がんに対す る全摘手術を開始し、その後順調に症例を重ね、今回消化器外科の大腸がん、 直腸がんに適用を拡大し、センター化しました。

センター長の雄谷剛士副院長は、「今後も低侵襲性治療を通じ、より多くの患者さんに、少しでも早い病気からの回復に寄与できるよう努めたいと考えています。そのため多職種で形成したロボット手術チームは協力し、日々業務の見直しと改善を継続しています。今後は術者の育成をしながら、適用症例を拡大していきます。」と抱負を語りました。



松阪中央総合病院ロボット手術チーム(伊勢新聞社提供)

(教来石信彦通信員)

健康活動推進人間ドックを実施

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連(庄山隆裕・代表理事理事長)では、JA共済連三重とタイアップした『健康活動推進 人間ドック ―健活ドック―』を実施しています。

県下JA組合員や専業農家、退職後のシニア層など、日ごろ人間ドックを受ける機会が少ない方を対象に、生活習慣病やがんなどの予防・早期発見を目的にした総合健診を、松阪中央総合病院・鈴鹿中央総合病院・三重北医療センター 本野厚生病院・三重北医療センターいなべ総合病院の健診施設において、1月~3月の期間限定で実施することになりました。

ドック料金はJA共済連三重からの助成を受け、充実した内容の人間ドックを実現することができ、JA組合員への広報も三重県内各JAの協力を得て、すでに多数の申し込みをいただいています。今後も地域の健康増進に役立つ活動に、さまざまな企画を凝らしたいと考えています。

JA全厚連情報 No.1125 2023年3月1日





沽

康

動 U んか

できるように「質」 地域の皆さまが、安心して健やかに生活 を組み、プレミアム価格の人間ドックを この想いから、共済連と厚生連がタッグ の高い総合健診を

უ **თ** あなたのために

生活習慣病、がんなどの予防・早期発見が目的です

※上記料金は、JA共済連三重・JA三重厚生連からの助成後(助成額 20,000円)の金額です

松阪中央総合病院 | 鈴鹿中央総合病院 | 菰野厚生病院 | いなべ総合病院

県内4か所の厚生連病院で人間ドックを受けることができます

■対象者

県下JAの組合員さま・同居のご家族さま および三重県にお住まいの方 (職場等で受診する機会のない方に限る) ※限定 1,000名

■ 実施期間

令和5年1月~令和5年3月

■ 申し込み先

電話またはFAXでお申し込みください (連絡先は裏面を参照ください)

3つの特徴

① 質の高い総合健診

● 経験豊富な専門スタッフと充実した医療機器による 質の高い人間ドックを提供

② 充実の検査内容

- ●腹部エコー、腫瘍マーカー等がんの早期発見に有用な検査をはじめ、生活習慣病等の様々な疾患に対応
- 多彩なオプション検査(詳しい検査内容は裏面参照)

安心のアフターフォロー

● 検査結果に応じ、治療が必要な場合は、専門医による診察を受けて頂けます

■ JA共済連三重 / JA三重厚生連

健活ドックチラシ

(教来石信彦通信員)